

# 戦国武将神代勝利の活躍

— 嘉瀬川ダム発掘調査の成果 —

会期：平成22年2月9日(火)～4月11日(日)

会場：佐賀県立博物館

# I 嘉瀬川ダムと文化財調査

国土交通省による嘉瀬川ダム建設工事に伴い、佐賀県教育委員会が平成12年度から佐賀市富士町内において実施している文化財発掘調査により、旧石器時代から江戸時代にかけての集落跡や墓地、城館跡など多数の遺跡が確認され、これまでわずかな文献資料でしか知ることのできなかったこの地域の歴史が次第に明らかになりつつあります。特に、神代勝利の城館跡とその一族の墓所の全容が把握された東畑瀬遺跡は、城館跡と墓所があわせて確認された全国的にも数少ない調査として注目されています。

今回の展示は、神代勝利とその時代を中心に、各遺跡から出土した中世～近世の資料を展示し、これまで行ってきた嘉瀬川ダム区域内の最新の発掘調査成果を紹介します。

## II 武士の登場と集落のはじまりー鎌倉時代・室町時代ー

中世の富士町には肥前安富荘という荘園の一部であったとの記録があり、開発が山間部にまで及んでいたことがわかります。その後、有力者は、在地領主化し、武士として力をつけていきました。文献に、畑瀬氏・栗並氏・藤瀬氏・菖蒲氏・嘉村氏などの活動が見られるのもちょうどこの頃です。

発掘調査の結果、中世の集落は、現在の集落と同じ場所にあったことが明らかになっています。富士町の今の暮らしは、中世から連続と受け継がれてきたものといえるでしょう。

### ■西畑瀬遺跡

鎌倉時代～室町時代を中心とする掘立柱建物群や鍛冶関連遺構が見つかり、愛知・長崎などの国内産の調理具、中国・朝鮮半島産の食器類、さらに、佐賀県内で他に4遺跡でしか出土がないベトナム産の陶磁器も出土しました。東畑瀬遺跡とともに「安富庄畑瀬村」に関連する集落と考えられます。

### ■東畑瀬遺跡

鎌倉時代の集落跡とともに掘立柱建物が見つかりました。西畑瀬遺跡と同じく、文献に登場する安富荘に関連する集落と考えられます。また、地元で伝承の残る八龍社の社殿跡も発掘されています。

### ■九郎遺跡

鎌倉時代後期の集落跡で、掘立柱建物・柵列・土壇墓・竪穴遺構・鍛冶炉などが検出されました。土壇墓には中国から輸入された青磁や白磁が6個も副葬されていました。また、竪穴遺構・鍛冶炉には焼土や炭が堆積しており、鞆の羽口や鍛冶滓、鍛造剥片などが出土していることから、鉄器製作の作業場があったと考えられます。

### ■大野遺跡

鎌倉～戦国時代の集落跡から土師器皿や滑石製の石鍋などの生活用具や中国宋代の陶磁器などの輸入陶磁器の他、茶臼・茶釜のような茶道具など多様な遺物が出土しました。また、鎌倉期創建の寺院跡と思われる建物跡が見つかるなど、周辺地域の中で中核的な区域であったことがうかがえます。

### ■大串遺跡

室町時代の遺跡が調査され、百年以上も継続した建物群があったことが明らかになりました。調査の内容から、地元有力者の屋敷地であったと考えられます。朝鮮王朝期の陶器や山口県産の土器などが多く出土するという特徴があります。

### ■平阜遺跡

室町～戦国時代にかけての掘立柱建物群が見つかり、中国・朝鮮半島から輸入された青磁・白磁・高麗青磁等が出土しています。この建物群は、中世における領主クラスの武家屋敷(屋敷地)と考えられます。屋敷地全域を調査した例は全国的にみても少なく、当時の武士の実態を知る上で重要な資料となります。



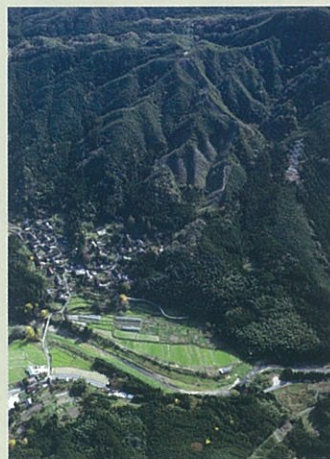
大串遺跡全景



西畑瀬遺跡掘立柱建物群



西畑瀬遺跡全景



東畑瀬遺跡全景



東畑瀬遺跡 八龍社跡



九郎遺跡土壇墓副葬品



大野遺跡全景



同遺跡瓦器碗出土状況



大串遺跡掘立柱建物群



平阜遺跡調査状況

### Ⅲ 戦国武将神代勝利の活躍

神代勝利は戦国時代に筑後からこの地に移住してきた神代宗元の子で、佐賀北部の小領主たちをまとめて勢力を伸ばし、一躍肥前の有力武将に成長しました。勝利の最盛期には、三瀬峠を越え現在の福岡市早良区まで進出しました。同じ時期に佐賀の平野部で勢力を伸ばしつつあった龍造寺隆信とは、抗争と和睦を繰り返す好敵手でした。

永禄5年(1562)、両者の間に最終的な和睦が成立し、勝利の孫娘と隆信の三男鶴仁王丸の縁組も行われました。永禄7年(1564)、勝利は隠居所として畑瀬城を築き、子の長良(ながよし)に家督を譲りますが、病にかかり、ついにその翌年の3月に55歳の生涯を閉じます。

#### ■神代勝利館跡(東畑瀬遺跡)

北西に開く谷部を造成し、掘立柱建物である館の周囲を土塁や堀などで守りを固めています。また、北東側の尾根上や南東背後の山頂には山城が築かれ、この一帯が隠居所として築かれた「畑瀬城」であったものと推定されます。単なる楽隠居ではなく、実権を握ったままの建前上の隠居と思われ、勝利は畑瀬を拠点として新たな勢力拡大を構想していたのかもしれない。



神代勝利 肖像：勝玉神社所蔵

#### ○鉄砲玉の鋳型

神代勝利館跡から出土しました。滑石製(変成岩の一種)で、径1.2cmほどの半球の型が裏表に一つずつ彫り込まれています。文献史料に、弘治3(1557)年の金鋪峠合戦で神代方の阿舎坊という山伏が鉄砲を実戦で使ったとの記事があり、佐賀における鉄砲導入期の様子を知る貴重な資料といえるでしょう。



#### 【その後の神代氏】

勝利の死後、家督を継いだ長良は、龍造寺氏の一族である鍋島直茂の甥、家良を養子に迎え家督を継がせます。これにより、長く続いた龍造寺氏との戦いが終わります。鍋島氏が事実上、佐賀藩主としての地位を確立すると、神代氏は鍋島家の親類格となり、佐賀本藩の重臣として存続しました。元和3年(1617)鍋島直茂は孫の元茂に小城に知行地を与え(後の小城藩)、側近の一部を元茂のもとへ移籍させました。その側近の中に神代源内という神代氏一族が含まれており、神代氏は小城藩の上級家臣としても存続しました。宗源院墓地に眠る神代氏一族は、これら小城藩の家臣となった一族です。



神代勝利館跡全景

### Ⅳ 乱世の終わりと集落の発達－江戸時代－

江戸時代になると世の中が次第に安定し、人々の暮らしも豊かになっていきます。各遺跡で、たくさんの建物跡や大量の土器・陶磁器などが確認され、集落が拡大し発展したことがうかがえます。福岡・唐津と佐賀を結ぶ交通の要衝としての役割が増したことも一因といえるでしょう。

#### ■大野遺跡

戦国時代末～江戸時代初期の建物群などが調査され、出土した遺物から1600年前後の年代と推定されます。建物の規模や構造などと合わせて、役所的な建物であったと考えられ、江戸時代後期の大野代官所の前身のような性格のものかもしれません。

#### ■宗源院(そうげんいん)跡

神代勝利の菩提寺で、調査の結果、江戸時代前期の17世紀前半から19世紀以降にかけて、4時期の寺院跡が重複して確認されました。200年忌以降、50年ごとに勝利を偲ぶ法要が行われたことが記録に残っており、法要のたびに改築・改修などを行っている可能性があります。

#### ■宗源院墓地

神代勝利とその一族および宗源院歴代住職の墓、計47基が営まれていました。勝利の墓には、遺骨や副葬品がなく、改葬されていたと考えられます。神代氏一族・歴代住職の墓には、方形や円形の墓、石蓋をした墓、大墓に埋葬した墓など、いろいろな種類の墓があり、様々な副葬品が出土しました。戦国武将やその一族の墓地を調査することは全国的にも稀で、佐賀県の中近世史を考える上で注目されています。

#### ■大野代官所

佐賀藩の支藩である小城藩の代官所跡で、石垣が良好な状態で残っています。江戸時代後期に設置されたと考えられますが、設置された正確な時期や目的ははっきりとしません。昨年、佐賀市教育委員会によって行われた発掘調査で、代官所正門の石段が見つかっています。



大野遺跡掘立柱建物群



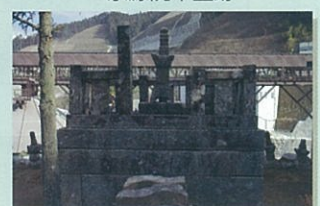
宗源院墓地全景



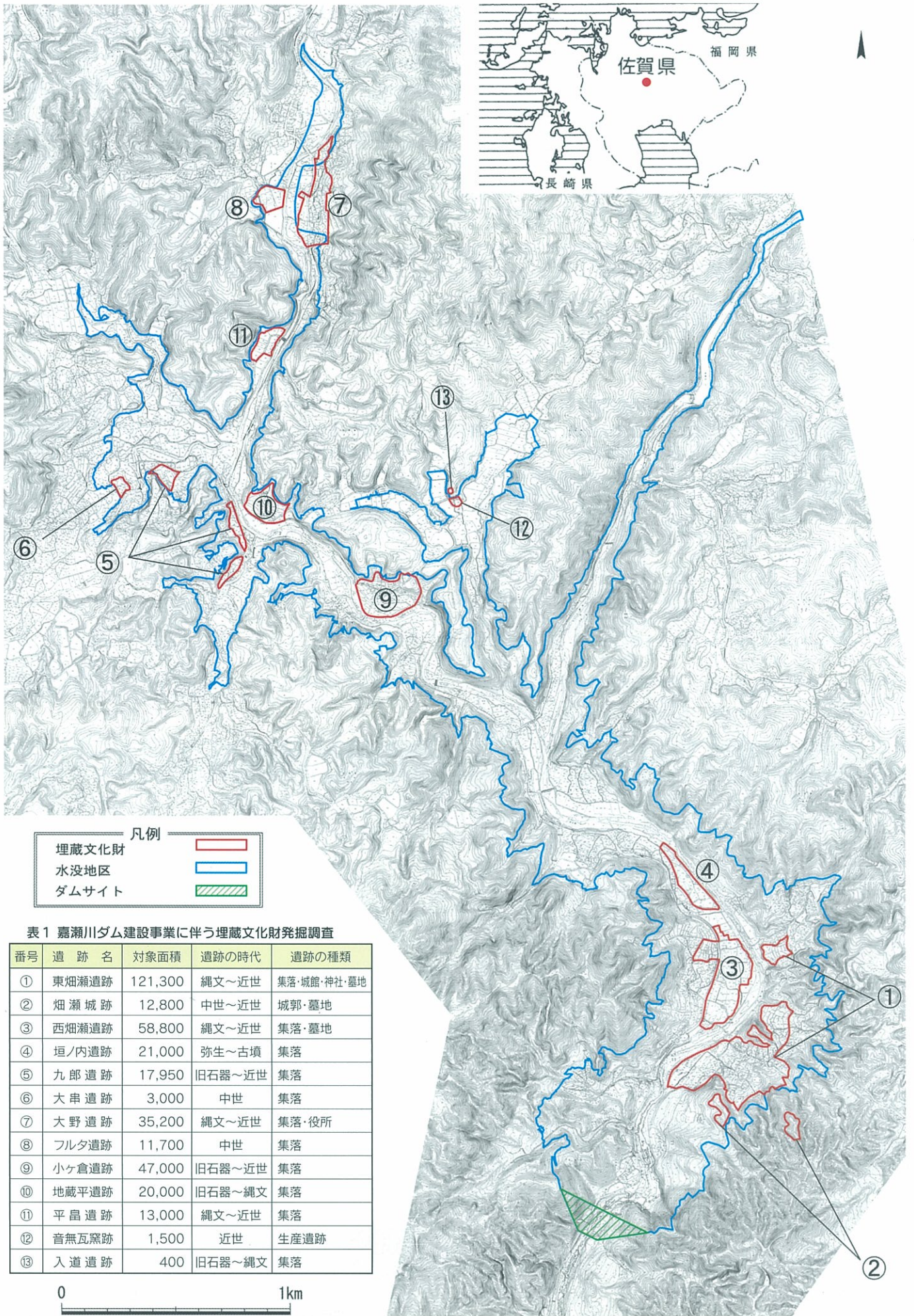
宗源院本堂跡



大野代官所跡



宗源院墓地(神代勝利墓)



凡例

埋蔵文化財	
水没地区	
ダムサイト	

表1 嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

番号	遺跡名	対象面積	遺跡の時代	遺跡の種類
①	東畑瀬遺跡	121,300	縄文～近世	集落・城館・神社・墓地
②	畑瀬城跡	12,800	中世～近世	城郭・墓地
③	西畑瀬遺跡	58,800	縄文～近世	集落・墓地
④	垣ノ内遺跡	21,000	弥生～古墳	集落
⑤	九郎遺跡	17,950	旧石器～近世	集落
⑥	大串遺跡	3,000	中世	集落
⑦	大野遺跡	35,200	縄文～近世	集落・役所
⑧	フルタ遺跡	11,700	中世	集落
⑨	小ヶ倉遺跡	47,000	旧石器～近世	集落
⑩	地藏平遺跡	20,000	旧石器～縄文	集落
⑪	平畠遺跡	13,000	縄文～近世	集落
⑫	音無瓦窯跡	1,500	近世	生産遺跡
⑬	入道遺跡	400	旧石器～縄文	集落

0 1km